

# 03 環境との共生

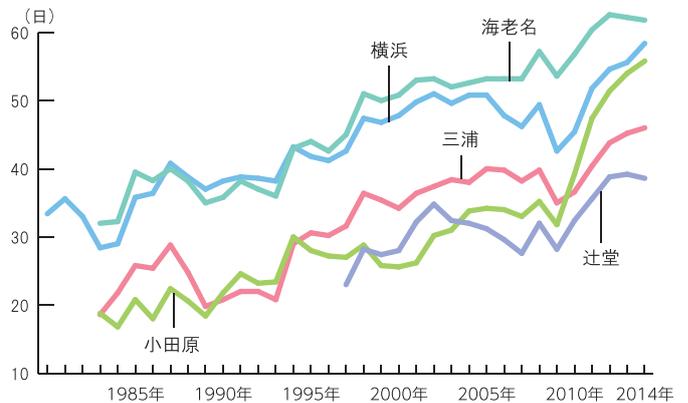
## 1 環境問題の顕在化

神奈川県内においても、環境問題は顕在化しています。県内各地の真夏日の日数は、昭和 60 年代以降、年々増加傾向にあります。県内の複数の都市部においてもヒートアイランド現象が確認できており、人工排熱や地表面被覆の人工化（緑の減少）、都市形態の高密度化が原因とされています。CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）の排出量の推移を見ると、1990（平成 2）年の基準年と比較して業務部門で 2 倍、家庭部門で 1.6 倍になっています。

地球温暖化など地球規模での環境問題が深刻化する中、中長期的な温室効果ガスの排出削減目標のもと、企業や家庭では省エネに向けた取組が進められています。県においても、低公害車の導入の支援や森林の適正な管理、再生可能エネルギーの普及に取り組んでいるところであり、地域における温暖化対策をより一層進めていく必要があります。

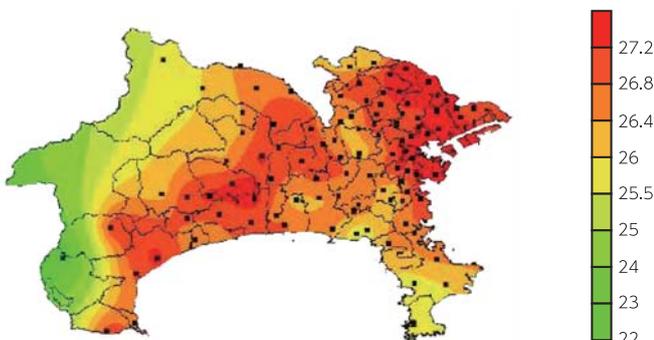
## 地球温暖化

### 真夏日日数の推移

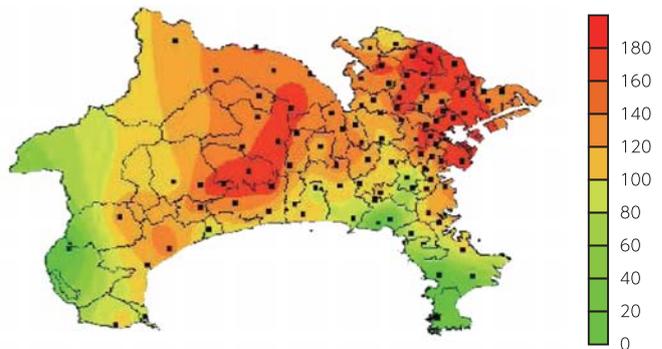


気象庁観測データより作成

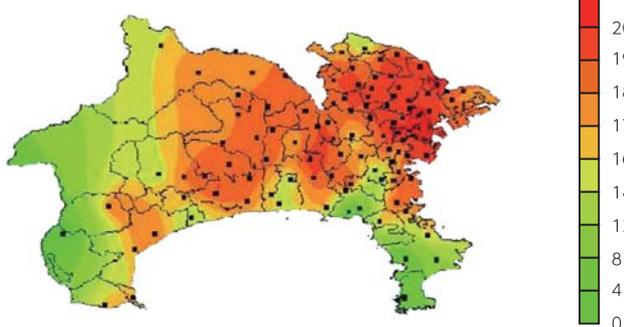
## 神奈川県内におけるヒートアイランドの発生状況



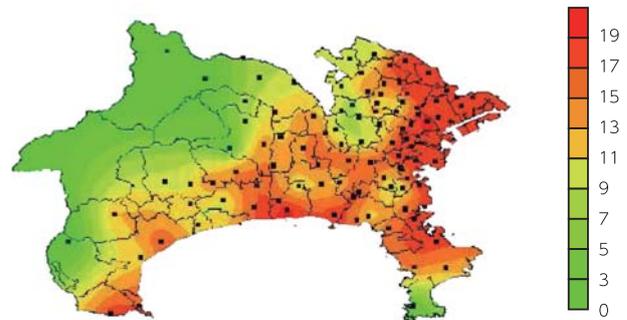
2014 年 8 月の平均気温



2014 年 8 月の 30℃以上の延べ時間数



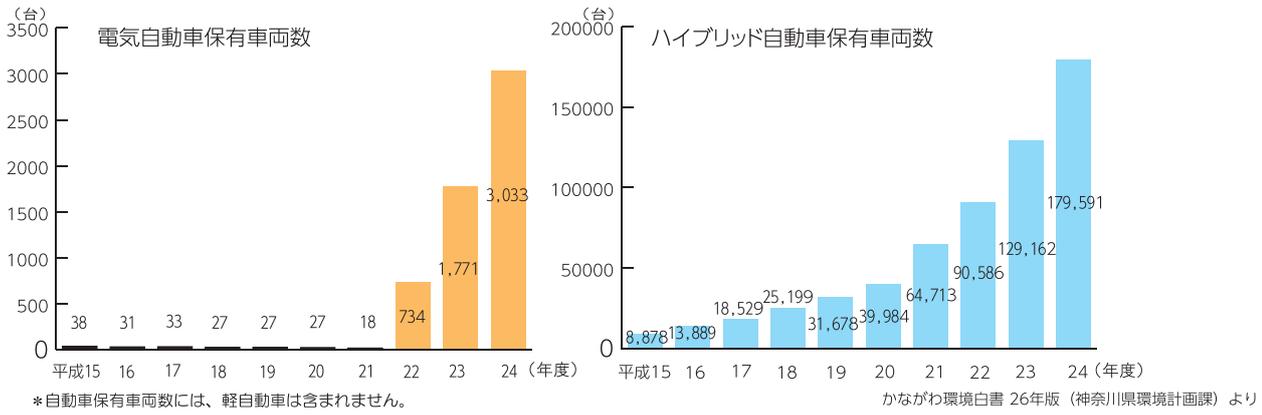
2014 年 8 月の真夏日の日数



2014 年 8 月の熱帯夜の日数

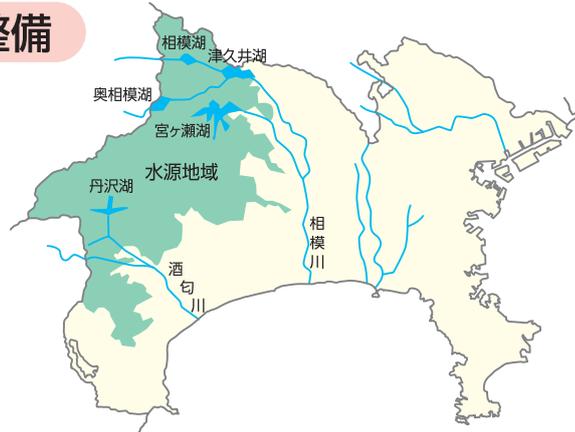
神奈川県内におけるヒートアイランドの発生状況 平成26年度（環境農政局環境計画課）より

## 県内の低公害燃料別自動車保有車両数

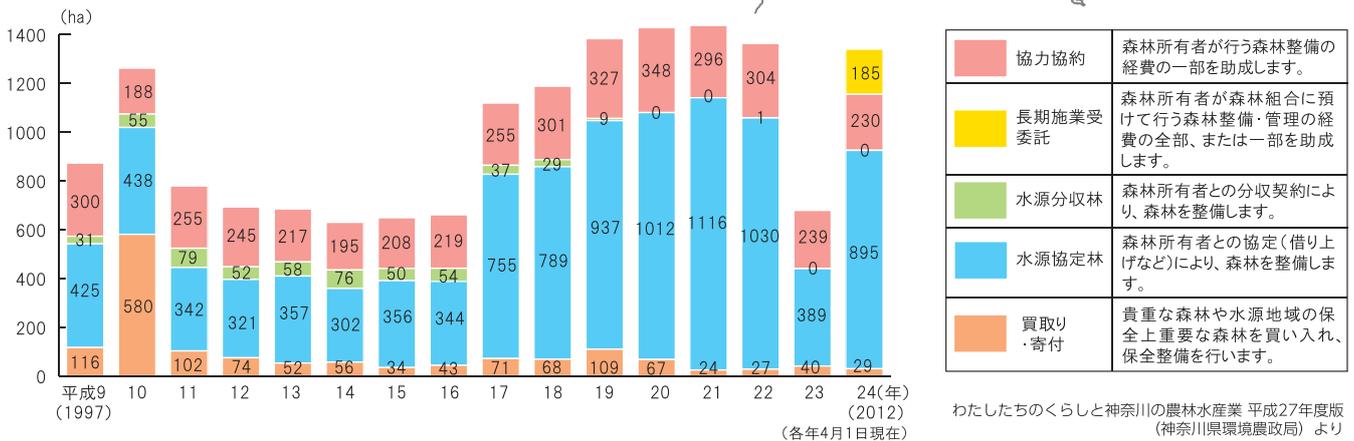


## 自然の活力を育てる水源の森整備

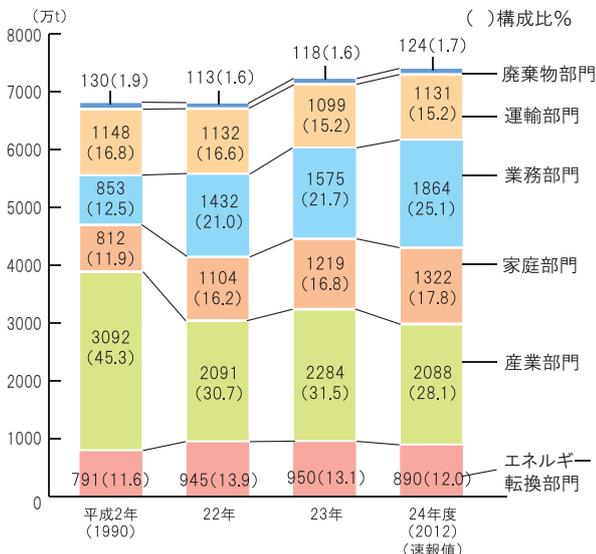
### 水源の森林エリア



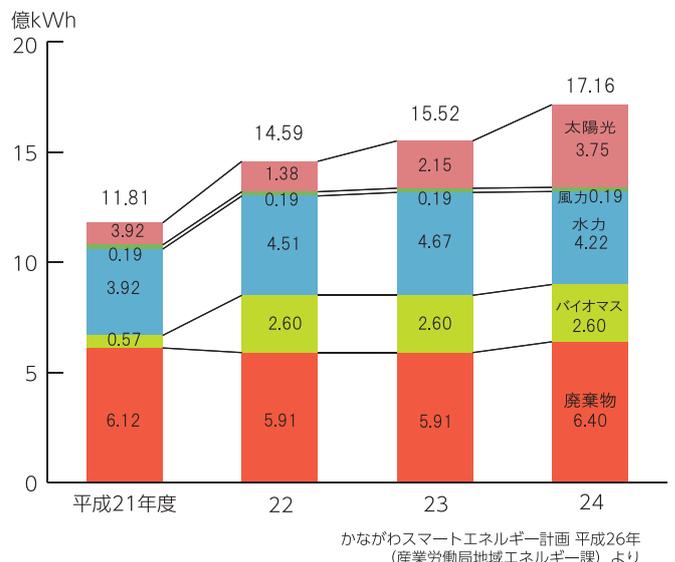
### 新たに公的管理・支援を行うこととした森林の面積



## CO<sub>2</sub>排出量の推移



## 再生可能エネルギー等による発電量の推移



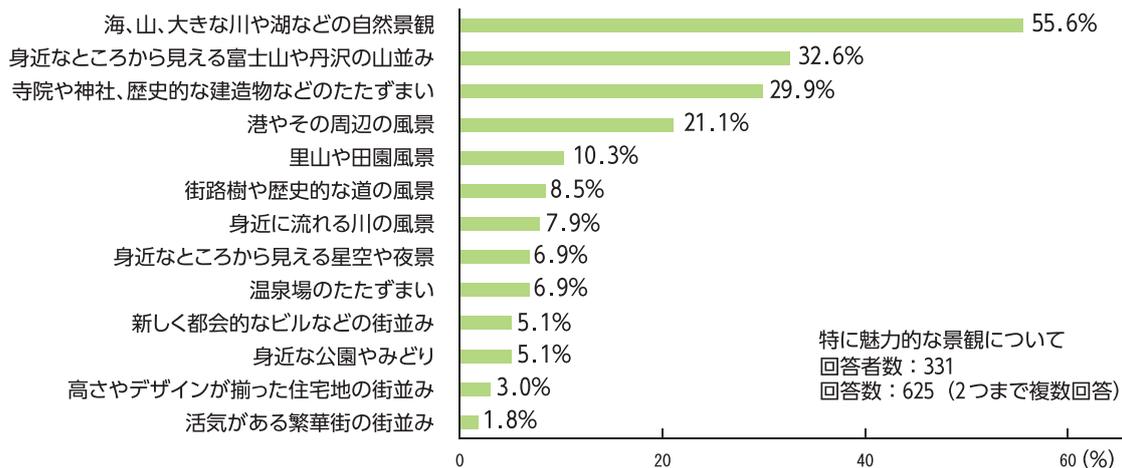
## 2 地域の景観を生かしたまちづくり

神奈川県の特徴的な景観として、県民に最も支持されているのが、「海、山、大きな川や湖などの自然景観」です。相模湾に面し、丹沢山系に抱かれる神奈川県は、首都圏にあって大きな都市をかかえる県でありながら、豊かな自然環境にも恵まれています。都市部に近

いところにも里山のように親しく接することのできる自然があります。

また、自然ばかりでなく、古都鎌倉の寺社や湘南海岸一帯に多くみられる別荘地の邸宅・庭園、横浜港周辺の景観など、地域の魅力をまちづくりに生かしていくことが重要です。

### かながわの魅力的な景観



平成16年度県政モニター県政課題アンケート調査（神奈川県広報県民課）より

## 相模湾沿岸の地域資源を生かした取組

### 邸宅・庭園や歴史的建造物の分布地区

凡例

- 邸園住宅地
- <緑の多い地域>
- 市街化調整区域
- 公園・緑地
- 風致地区



相模湾沿岸地域一帯は、明治期から別荘地・保養地を形成し、首都圏で活躍する政財界人や文化人が滞在し交流する地域として発展し、文学・音楽・スポーツなど様々な文化を発信してきました。しかし、近年においては、その文化を育んできた邸宅・庭園や歴史的建造物が失われています。一方、この地域の各地では邸宅・庭園の保全活用やまちづくりに取り組むNPO等が活発に活動しています。

この地域の歴史文化を育み、人々の心に残る景観をかたちづけてきた邸宅・庭園や歴史的建造物を、官民協働により、新たな文化発信や、地域住民と来訪者による多彩な交流の場として保全活用し、地域の活性化につなぐ「邸園\*文化圏再生構想」が、県や市町、NPO等との連携により進められています。

\*邸宅と庭園を合わせて「邸園」と名づけたもの。

邸園文化圏再生構想（神奈川県都市整備課 HP）より